



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.218

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2024年1月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：本多嘉明)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

ムーンショット目標8・海上豪雨生成プロジェクトのキックオフ ～ 小槻・岡崎研究室通信・第32号～

2023年8月にムーンショット目標8にプロジェクト採択頂いたコア研究課題「海上豪雨生成で実現する集中豪雨被害から解放される未来」が、4か月の作り込み期間を経て2023年12月にスタートしました。小槻がプロジェクトマネージャー（PM）を務め、気象、防災、数理、情報、画像工学、法学、倫理などの分野から20名を超える研究代表者（PI）が参画します。スタートまでの4ヵ月は膨大な書類作業や、多くの方々との調整が必要でした。サポート頂いた大橋さん・野路さん・中村さんを始めとするPM班の皆さまには心から感謝申し上げます。こちらのプロジェクトの取り組みについては、1月11日の朝日新聞・千葉版でもご紹介いただきましたので、ご関心をお持ちの方はそちらもご覧頂けますと幸いです。ムーンショットは社会的にも関心の高いプロジェクトであり、損保ジャパンやウェザーニューズを始めとする産学連携も含めた体制で研究を進めていきます。

ところで最近、京セラの創始者である稲盛和夫の下記のような言葉に感銘を受けました。曰く、『明治維新の立役者は「偶然同じ時代に凄い人が集まった」のか？おそらくそうではない。それよりも、「時代がその役割の人を求めた」と考える方が自然である。半導体が勃興していくには、ある人間が必要だった。たまたまそれが「稲盛和夫」であっただけで、ほかの存在が「稲盛和夫」と同じ才能を持っていれば、その人が代行していてもよかったはずだ』。

これまで好奇心で研究してきましたが、自分に科学の歴史に名前を残すチャンスがあるとは考えていませんでした。しかしこのプロジェクトは、その挑戦チケットをもらえた気がしています。そしてその挑戦チケットは、時代の要請で偶然得たものです。10年前に気象制御研究は出来なかったし、10年後には終わっているかもしれない。10回研究者人生をやり直して、1回もこんなチャンスはない。得られたチャンスを最大限楽しめるように、真剣に取り組んでいきたいと思えます。

(小槻峻司)



新教員紹介

黒澤 賢太 特任研究員



皆様、こんにちは。私の名前は黒澤賢太と申します。この度は、小槻・岡崎研究室の一員としてお世話になることになりました。私は、これから気象制御に関する研究に従事する予定です。

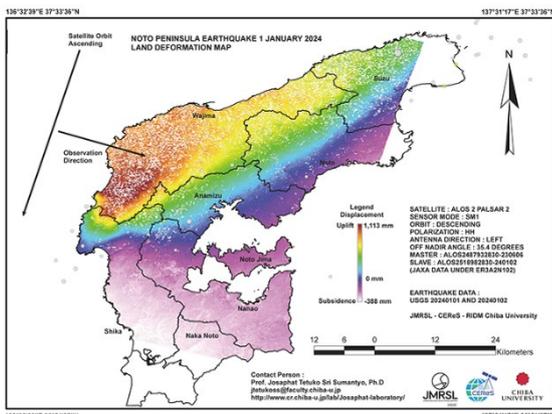
私は2018年に神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻で修士号を取得した後、理化学研究所計算科学研究センターでテクニカルスタッフとして勤務しました。その後、米国メリーランド大学大気海洋科学科にてJon Poterjoy教授の指導のもと、2023年9月に博士号を取得いたしました。私の専門はデータ同化であり、これまで数値天気予報、非線形・非ガウス問題や、アンサンブルフィルター・スモーカーに焦点を当てて研究を進めてきました。私は、学部生ではプログラミングと海洋モデルの使用方法を学び、修士課程では領域海洋モデルへのデータ同化技術を習得しました。その後のテクニカルスタッフとしての勤務では、全球大気モデルへのデータ同化に取り組み、博士課程ではデータ同化の理論および領域大気モデルへの応用に重点を置いた研究に携わりました。こうして振り返ると、私の研究内容は散漫のように見えるかもしれませんが、私にとっては全てが連続しており、一つ一つの経験が次のステップへと繋がっています。特に、気象制御の分野はデータ同化と密接に関連しており、これまでの経験を活かして貢献できることを大変嬉しく思います。

新しい環境での挑戦に、大きなやる気に満ち溢れています。皆様にお助けいただきながら、更に成長していきえることを楽しみにしています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

能登半島地震における隆起について

～ ヨサファット教授による解析 ～

2024年1月1日16時10分頃、石川県能登地方で強い揺れを観測し、気象庁では「令和6年能登半島地震」と定められました。最大震度7を記録したこの地震は大きな津波と共にわずか数秒のうちに地盤隆起が発生しました。右はヨサファット教授による



SAR衛星（ALOS-2）データでの解析です。この解析では2023年6月6日（地震発生前）と2024年01年02年（発生後）のデータを使用して、微分干渉合成開口レーダ（DInSAR）という手法で解析いたしました。暫定速報値は、CERESウェブサイトで公開しています。ご参照ください。➡ <https://ceres.chiba-u.jp/4604/>

また、NASA Earth Observatory でも"Earthquake Lifts the Noto Peninsula"と題して衛星画像を公開しています。Landsat9による輪島市皆月湾の地震前(2022年1月10日)と地震後(2024年1月17日)の画像比較です。海岸線が干上がったように見えますが、地震により一部隆起し、後退した様子が見取れます。➡ <https://earthobservatory.nasa.gov/>

